

# EVトラック導入

全国3拠点に各1台

## 第一貨物(山形)県内物流業者初

第一貨物(山形市、米田総一郎社長)は、山形市の山形支店を含む全国3拠点に電気自動車(EV)トラックを各1台導入する。温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指すカーボンニュートラルの取り組みの一環で、加減速がスムーズで振動が少ないことなどから、ドライバーの負担軽減効果も見込む。県内物流業者でEVトラックの導入は初めて。



第一貨物が導入する電気自動車トラックのイメージ図

山形支店、東京支店(東京都江東区)、門真支店(大阪府門真市)に1台ずつ配置する。車両は「三菱ふそう・トラックバス」の「eキャンター」で、最大積載量2300kg。各支店エリア内で、企業向けの集配業務に活用する。グループ会社で三菱ふそう特約販売会社の太平洋興業(東京)を通じて、車両を導入する。納車は11

月下旬〜12月上旬の予定。これまでも検討したが、航続距離の問題で見送っていた。導入予定の車両は今年3月に発売された新型モデルで、最大航続距離は236kg。メーカーによる実用航続距離は前モデルの1・4倍に延びており、実運用に耐えられると判断した。満充電時間は16時間で、導入する各支店に充電設備

を設置する。車両デザインはコーポレートカラーの緑を基調に、持続可能な社会への思いを込めてプラグ入りのロゴを中央にあしらった。山形支店の車両は、主に山形市内を走行する予定。同社は「カーボンニュートラルの実現に向け、効果の検証を踏まえてさらなる導入拡大を検討する」としている。(阿久津誠)